

がんゲノム医療推進コンソーシアム懇談会の開催について

開催の趣旨等

- ゲノム情報を解析し最新の医学的知見に基づいて個人の状態により合わせた診療を行うがんゲノム医療を実現するためには、ゲノム情報を効果的に集積し、診療や新たな医薬品等の開発に活用する仕組みを構築する必要がある。
- 国内の医療従事者や研究者の力を結集し、最新のがんゲノム医療を国民に提供する仕組みを構築するために必要な機能や役割を検討し、がんゲノム医療の提供体制の具体的な進め方を検討するため、「がんゲノム医療推進コンソーシアム懇談会」を開催する。

構成員

天野 慎介	全国がん患者団体連合会	中西 洋一	九州大学大学院医学研究呼吸器内科学分野
五十嵐 隆	国立成育医療研究センター	西田 俊朗	国立がん研究センター中央病院
加藤 和人	大阪大学大学院医学系研究科	◎ 間野 博行	国立がん研究センター研究所
北川 雄光	慶應義塾大学医学部外科学	宮園 浩平	東京大学大学院医学系研究科
杉山 将	理化学研究所 革新知能統合研究センター 東京大学東京大学大学院新領域創成科学研究科	○ 宮野 悟	東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター
直江 知樹	名古屋医療センター	山口 俊晴	がん研有明病院

◎：座長
○：副座長

現状

- ゲノム解析が医療で可能な時代が到来
- 効果の乏しい治療を防ぐ医療の効率化が必要
- 海外ではがんゲノム医療・研究を一体的に推進

今後の方向性

- 全ゲノム検査等の実施・活用によりがん撲滅を目指す
- 質の確保されたデータを収集・管理・活用
- 体制の整った中核拠点でゲノム診療を実施

新たに必要な機能・役割

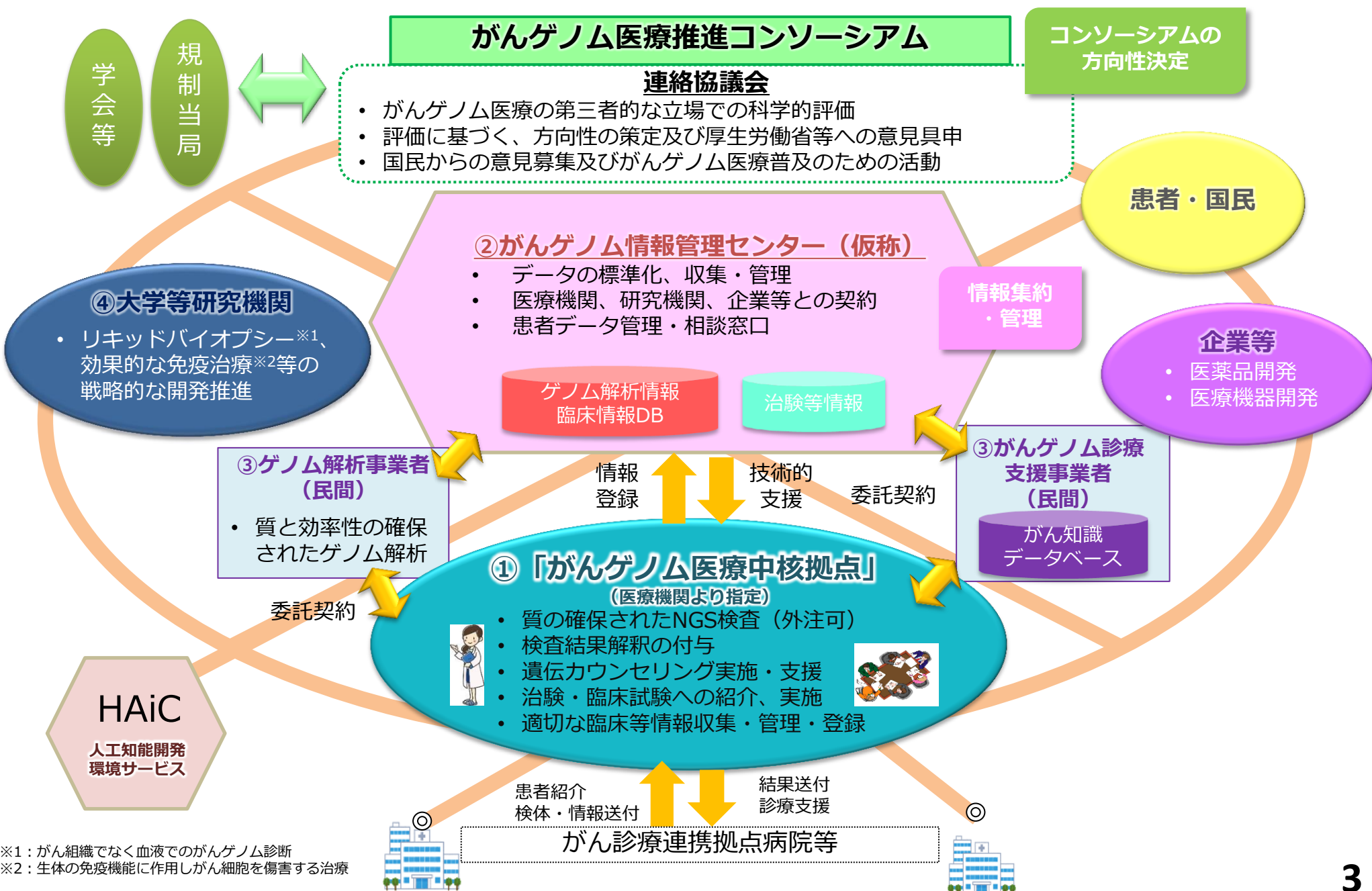
- | | | | |
|---|-------------------------|-----------------|--|
| ① | がんゲノム医療中核拠点
(仮) | 厚労省
が指定 | <ul style="list-style-type: none"> ○中核的拠点となる医療機関を指定しがんゲノム診療を実施 ○症例数、遺伝カウンセリング・臨床試験体制等を要件 ○平成29年度中に厚労省が指定 |
| ② | がんゲノム情報管理センター
(仮) | 公的
機関が
関与 | <ul style="list-style-type: none"> ○データヘルス戦略に位置付いた効率的なシステム ○患者や企業等の受益者がコストを負担 ○きめ細かな患者・国民対応を可能とする体制 ○治験・臨床研究情報の収集、患者等への提供 ○データ分析に基づく研究提言や企業等へのデータ移譲 |
| ③ | ゲノム解析

がん知識データベース | 民間
委託 | <ul style="list-style-type: none"> ○症例を集約し、ゲノム解析の質と効率性を確保 ○技術進展に応じ、常に優れた事業者を認定 ○日本人データに基づく知識データベースを構築 ○知識DBサービス事業者を認定・育成し、アジアに貢献 |
| ④ | 戦略的な
研究開発推進 | 大学
等 | <ul style="list-style-type: none"> ○リキッドバイオプシー等、高精度の再発フォローアップ ○免疫チェックポイント阻害剤などの効果予測因子の開発 ○革新的新薬・効果的な免疫療法開発 |

がんゲノム コンソーシアム 連絡協議会

- 関係者が運営に参画
- 事業者等を公平に審査・認定
- 国等に意見具申

がんゲノム医療推進コンソーシアムの体制と役割



※1：がん組織でなく血液でのがんゲノム診断
※2：生体の免疫機能に作用しがん細胞を傷害する治療

がんゲノム医療実用化に向けた工程表

2017(H29)年度

2018(H30)年度前半

2018(H30)年度後半

2019(H31)年度以降

がん
ゲノム
医療中核拠点等（仮）

ゲノム
検査の
承認・
保険適用

がん
ゲノム
情報
管理
センター
（仮）

研究開発
推進

